小林　登

（Kobayashi Noboru）

チャイルド･リサーチ･ネット
（CRN）所長

医学博士。東京大学名誉教授。国立小児病院名誉院長。チャイルド･リサーチ･ネット(CRN)所長。ベネッセ次世代育成研究所所長。子どもの虹情報研修センター（日本虐待･思春期問題情報研修センター）センター長。日本子ども学会代表。日本赤ちゃん学会名誉理事長（前理事長）。日本母乳保育学会名誉理事長（前理事長）。日本子ども虐待防止学会名誉会長（前会長）。

1927 年東京生まれ。54 年東京大学医学部医学科卒業。国際小児科学会会長、国立小児病院医療センター初代センター長、国立小児病院院長などを歴任。日本医師会最高優秀功労賞（1984 年 11 月）、毎日出版文化賞（1985 年 10 月）、国際小児科学会賞（1986 年 7 月）、勲二等瑞宝章（2001 年秋）、武見記念賞（2003 年 12 月）などを受賞。

主な著作は小児医学専門書以外には、「ヒューマンサイエンス」（中山書店）、「子どもは未来である」（メディアサイエンス社）、「育つ育てるふれあいの子育て」（風濤社）、「風韻怎思―子どものいのちを見つめて」（小学館）その他多数。

内田 伸子

（Uchida Nobuko）

お茶の水女子大学副学長

学術博士。第 20 期日本学術会議会員。お茶の水女子大学理事･副学長。専門分野は発達心理学･認知心理学。

1946 年群馬県生まれ。1968 年お茶の水女子大学文教育学部卒業、1970 年同大大学院人文科学研究科修了、学術博士、 1970 年一橋大学社会学部助手、1976 年お茶の水女子大学文教育学部専任講師、助教授(1980)、教授(1990)を経て1998 年同大大学院人間文化研究科教授。2004 年より文教育学部長、2005 年より現職。日本発達心理学会常任理事、日本教育心理学会常任理事など。

主要著書に『子どもの文章：書くこと考えること』（東京大学出版会,1990)、『まごころの保育―堀合文子のことばと実践に学ぶ ―』（小学館，1990）、『発達心理学：ことばの獲得と教育』（岩波書店,1999)、『異文化に暮らす子どもたち』（監修著,2004)、『心理学―こころの不思議を解き明かす ―』（光生館、2005)『わかりやすい乳幼児心理学』（ミネルヴァ書房、編著,2008）（サイエンス社,2008)、『子育てに「もう遅い」はありません（成美堂出版,2008)、『幼児心理学への招待 ―子どもの世界づくり』ほか多数。

受賞歴：城戸奨励賞（日本教育心理学会,1978)、読書科学研究奨励賞（日本読書学会,1980)、読書科学賞（日本読書学会,2000)、磁気共鳴医学会優秀論文賞（日本磁気共鳴医学会,2006)。

榊原 洋一

（Sakakihara Yoichi）

お茶の水女子大学教授

医学博士。お茶の水女子大学教授。日本子ども学会常任理事。専門は小児神経学、発達神経学特に注意欠陥多動性障害、アスペルガー症候群などの発達障害の臨床と脳科学。趣味は登山、音楽鑑賞、二男一女の父。

1951 年東京生まれ。1976 年東京大学医学部卒。東京大学小児科講師を経て、現在お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター教授。

主な著書：「オムツをしたサル」（講談社）、「集中できない子どもたち」（小学館）、「多動性障害児」（講談社＋α新書）、「アスペルガー症候群と学習障害」（講談社＋α新書）、「ADHD の医学」（学研）、「はじめての育児百科」（小学館）、「Dr.サカキハラの ADHD の医学」（学研）、「子どもの脳の発達　臨界期・敏感期」（講談社＋α新書）など。

一色 伸夫

（Isshiki Nobuo）

甲南女子大学教授

甲南女子大学人間科学部総合子ども学科教授。国際子ども学研究センター所長。NHK放送文化研究所客員研究員。

1970 年慶応義塾大学経済学部卒。NHKで番組企画制作に長く携わる。「おかあさんといっしょ」の番組開発に参加。NHK特集「赤ちゃん」など子ども関連番組を数多く担当。NHK放送文化研究所放送研究部長時代の 2001 年に 子どもへのメディアの影響を調査・研究する“子どもに良い放送”プロジェクトを立ち上げる。

現在、甲南女子大学では、“子どもとメディアの良い関係”を構築するための「子どもメディア学」の研究と実践を行っている。